

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
学校	日高川町立 寒川第一小学校	高台 浩
学校所在地		
〒644-1221 和歌山県日高郡日高川町寒川217 tel 0738(58)0215 fax 0738(58)0239		
担当者名	役職名・担当教科	
酒井 優	教頭	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>日高川町は、和歌山県のほぼ中央部に位置し、平成17年5月に川辺町・中津村・美山村の3町村が合併して誕生した。本校は、寒川地域にあり、新町の東端に位置し、山や川がきれいで、豊かな自然に恵まれている。高野(上・下)、船原、西の川、中村、朔日、滝の上、土居梅原、宮平、土居秋葉、長志(上・下)、板村(上・下)、小藪川(上・下)、小川の13地区200数戸を学区とする。近年は、区民の高齢化が進んでいる。グリーンキーパーの入居に伴い、児童数は増加傾向にあったが、平成24年をピークに減少傾向に転じている。全校児童は11名。1年生が欠学年。2年生、3・4年生複式、5・6年生複式の3学級。教職員は7名である。</p> <p>産業は林業が中心で、他にしいたけ栽培、梅づくりも行われている。</p> <p>登校時の通学路の見守り活動、子どもたちの体験活動等、保護者はもちろんのこと、地域全体が学校教育に対して大変協力的である。運動会は、寒川区との共同開催で「合同運動会」として行っており、寒川区民をはじめ多くの人で賑わう。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年5・6年生6名	職員2名	5・6年教室
実践研究テーマ		
進んで学び、確かな学力を身に付けた子どもの育成 ～書くことを通して自分の考えをまとめ、わかりやすく伝える指導～		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山県の世界遺産を調べよう	
〔キーワード〕		
世界遺産 歴史 高野山特有		
〔単元目標〕		
<p>(1)和歌山県の歴史、文化、自然を調べ、伝え合う活動を通して、和歌山県の素晴らしさやよさを感じようとする。 (知識及び技能)</p> <p>(2)自分たちの生活の基盤であるふるさとの、他地域と様々なつながりによって成り立っていることを認識し、地域への帰属意識を高め、今後の自己の生き方について考えようとする。 (学びに向かう力、人間性)</p> <p>(3)目的に応じて情報を集めたり、集めた情報を取捨選択したりして、資料の収集整理をしようとする。 (思考力、判断力、表現力)</p> <p>(4)調べて分かったことを、ポスター及びICTを活用して発信する活動を通して、情報の受け手を意識した表現をしようとする。 (思考力、判断力、表現力)</p>		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 15時間 (「和歌山県の世界遺産を見つけよう」10時間)		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
(1) 和歌山県世界遺産センター …次世代育成事業(世界遺産入門、現地学習)		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1 和歌山県はどんな県か。 2 和歌山県の気候、自然、生活文化を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が持っている和歌山県のイメージを出し合う。 資料から、新たに気付いたり、興味を持ったりした事柄を挙げる。 	(知識及び技能) ワークシート
2	3 世界遺産とは何かを知る。 4 和歌山県にある世界遺産について調べる。 5 自分が調べたり、伝えたりしたいテーマを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコの取り組みの概略を知る 和歌山県にある世界遺産とそれらの特長を知る。 今までの生活、学習の中から自分の興味関心があることを見つけ自己決定する。 	(知識及び技能) ワークシート
3	6 高野山の素晴らしさを体感する。世界遺産に関わる人たちの思いに触れ、それを大切に守り、伝えていこうとする心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 高野町中央公民館を訪ね、世界遺産について学習するとともに、現地ガイドに解説していただきながら、一の橋から弘法大師御廟までを歩く。 	(学びに向かう力、人間性) 観察 ワークシート
4	7 現地見学で見聞したことをふりかえる。 8 自分のまとめ学習の構想を立て、必要な資料を整える。	<ul style="list-style-type: none"> いただいた資料や、撮影した画像等を提示する。 これまでの学習の経験を生かして、必要な情報を得る手段を話し合う。 	(思考力、判断力、表現力) 観察 ワークシート
5	9 発表会をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの「発表時のめあて」を持たせる。 他の児童の発表のよさを見つけたり、それを自分にも採り入れようとする。 	(学びに向かう力、人間性) (思考力、判断力、表現力) 観察 自己評価ワークシート

〔単元学習の成果と課題〕

成果 ふるさと学習の実践を通して、子どもたちについての力は、「身の回りの物事をしっかり見ること」である。これまでなら見過ごしてきたこと、また、関心を示さなかったことに目を留めるようになった。中には、教師や友達に対して「これは何？」などと、疑問を口にすることが増えた気がする。また、「調べたことを伝えたいと思う意欲」も見られた。自分が調べて分かったことを、即、その場で、友達に話し、感想を求めることが増えた。

課題 自分の住んでいる地域（市町村）の特長を問われたとき、大人でも答えに窮する。頑張っただけの回答として、「隣の町との違いは？」と考えると、再び答えに窮する。それが、児童にとってはなおさらであろう。小学校低学年のうちから、発達段階に応じた体験活動が必要で、思い出となるいい経験を積み重ねることこそ、郷土愛を培うことにつながると考えている。要は、体験活動の提供者の存在、プロデュース力が必要である。

〔世界遺産学習の効果〕

- (1) 「世界遺産」というワードで、「大切なもの」あるいは「世界に唯一無二」というムード作りができる。
- (2) 自分たちが住んでいる和歌山県に世界遺産があることが、子どもたちにとっての誇りになる。
- (3) 世界遺産には、それにまつわる歴史事象、産品（特産品・鉱物資源）、人々（育成・戦い・闘い）等と、それを現代に伝えた人々の存在がある。あるいは、自然を守り、自然と共存してきた人々の存在があるはずで、社会科、理科をはじめ、多方面にわたる学習に対するモチベーションが高くなる。
- (4) 誰かが今に伝えてきたものを、「次は自分が伝えたい。」との気持ちから、国語科の「話す・聞く」活動やコミュニケーション等にも効果がある。
- (5) 全世界に存在する世界遺産について考えることによって、ユネスコ、戦争、環境破壊、SDGs等に触れ、考えがグローバル化される。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

これまで通り、学校ではできない体験活動を重視し、それをプロデュースしていく方向で良いのではないかと。もちろん、児童の発達段階に応じた最低限の講義はもちろん重視したい。必要な知識が入っていないと、いくら体験活動を重ねても、それが効果的なものではなくなる気がする。子どもたちにとって、近い将来に訪れる職業選択の機会に、あるいはライフワークを考える際に、「子どもの時に体験した世界遺産の学習をきっかけに、自分はこの道を選んだのだ。」という若者が増えることを目指す。

様式 2

令和4年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]



私は、世界遺産に登録されている高野山に行きました。
高野山にしかない植物があり、とてもきれいでした。
豊臣秀吉や徳川家康など、社会の教科書に出てくる有名な人のお墓があって、とてもびっくりしました。明智光秀の五輪塔が何回造り直してもお腹の部分が割れるのは、織田信長の呪い説があって、とても興味深かったです。
もう一回、ゆっくり時間をかけて行ってみたいなあと思いました。



高野山に行って分かったことは、森林ばかりの和歌山県にも、世界遺産の建物や土地があることです。
社会科で習った織田信長や豊臣秀吉、徳川家康の供養塔があることも知れてよかったです。ほかにも、高野山にしかない植物や、今までに見たことのない花がありました。
建物だけでなく植物も、高野山特有のものがあり、建造物、自然とともに、高野山を守っていかなければならないと思いました。